

# やくしまに暮らして

ネイチャーガイド 大野 睦

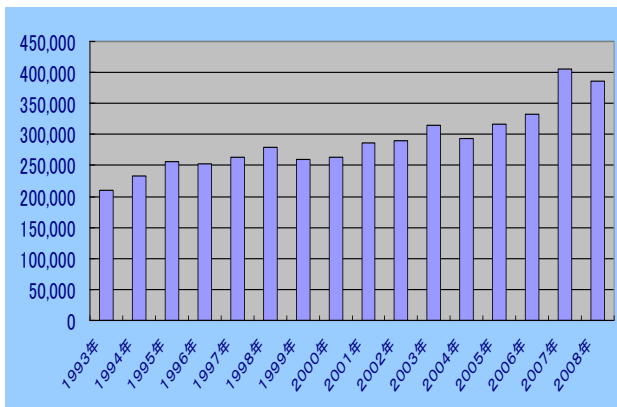
## 第六章 世界遺産登録後の歩み

### ■環境の変化



世界自然遺産登録の背景は第一章に述べているので、ここからは登録後の歩み、その背景について触れたい。

1993年に世界自然遺産に登録された屋久島の観光客数は緩やかに右肩上がり。離島であるが故のアクセスの不便さ、すぐには追いつかないインフラ整備。夏は台風銀座、冬は北西の季節風により天候不順が続き、交通便の欠航も珍しいことではない。



そんな背景の中、屋久島の観光客数は1993年からの15年間で約2倍となる。しかしながらその交通便の不便さこそ屋久島を訪れる観光客数を緩やかに増加させた理由でもある。他の世界遺産登録地域でよく聞いたのが、登録直後に急増した観光客。しかしながら増加を続けるといったことはなかったと。もちろん、登録地のすべての地域において観光客が増加することを歓迎している訳でもなく、突然たくさんの人が訪れるようになり、大型バスの騒音や排気ガス、生活環境までも脅かすことになり困惑している事例も少なくない。

今年世界遺産登録地となった小笠原や平泉においては来年一年は大きな影響を受けることになるであろう。

屋久島では観光客が急増しなかった理由として交通アクセスや宿泊施設が急激に増えることなく物理的なハードルがあったことが最も明確な原因であるが、実際には島外からの大手資本によるホテル建設の話が出たりしながらも頑固として受け入れなかった動きもあり、ただただ大きな力に揺れ動かされないようとした背景がある。

また、屋久島の場合は日本で初めての登録地であり、世界遺産という言葉にも屋久

島という島の名前にも馴染みがなく、登録から数年後ようやく認知度も高くなり、モデルケースとして他の地域、とりわけ世界遺産登録地や世界遺産登録を目指している地域、観光地からは注目を浴びるようになる。また、米国同時多発テロなど、諸外国に起きる様々な事件などからも若年齢層の海外離れが目立ち、国内での旅行が伸びた時期もあり、屋久島においてはその影響を大きく受けた背景がある。

## ■現状と課題

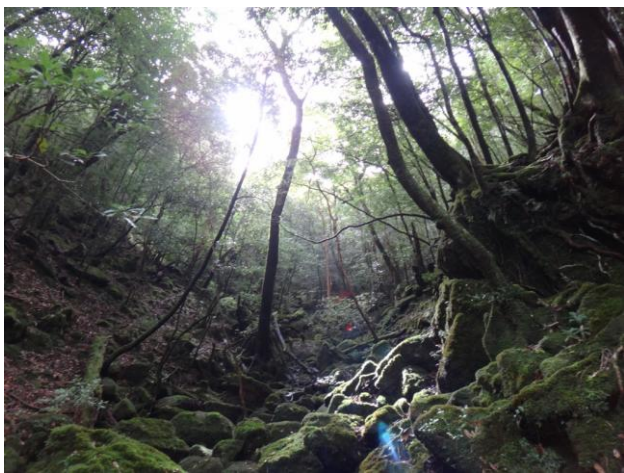
他の地域からはとても理想的な増加傾向のある屋久島の観光。初めての登録地として無我夢中で歩んだのかもしれない。いや、突っ走ったのであろう。気が付けば設備や

施設の老朽化は進み、耐用年数を大きく超過していたり、現実の利用者数と利用許与量に大きな差が生じており、建設当時の現状や試算と現状の格差が浮き彫りになっている。特に山岳部におけるトイレについてはその問題が顕著であり、既設トイレの修繕や増築にも着手出来ず、また新設トイレについてもその環境からリスクの高さが目立ち、現状では携帯トイレの導入について環境省や観光協会でも推進し、今すぐ出来ることとして観光客にも協力を要請、使用を促進しているが、同時に鹿児島県や屋久島町では既設トイレの汲み取りに掛かる経費を捻出するべく山岳部保全募金への協力も要請しており、その複雑な管理体制によりわかりにくい部分、重複している部分などを統一させるためにも一本化が望まれている。





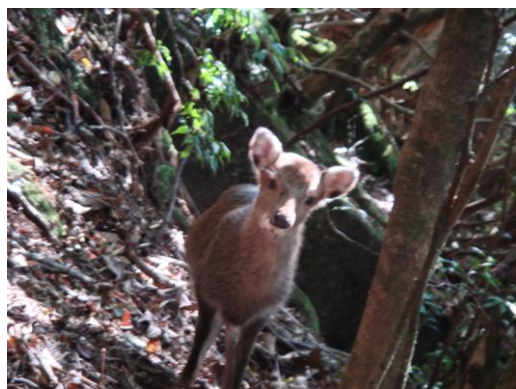
る。また、観光客のニーズの多様化により、特に宿泊業やガイド業ではそのニーズに応えるべく様々な受け入れ態勢があるのだがその違いが明確でないケースもあり、また、その年毎にめまぐるしく変わる時代背景は情報に溢れる時代だからこそ多種多様化し複雑にもなっているのかもしれない。



屋久島に限らず、世界遺産登録地いずれの地域でも抱える問題点として、環境省、都道府県、地域行政といった縦割りでありながら役割や責任を共有しないため、歩み寄りやすすり合わせ、つまりは同じ目標に向かい手を取り合うことが非常に難しいことが挙げられる。

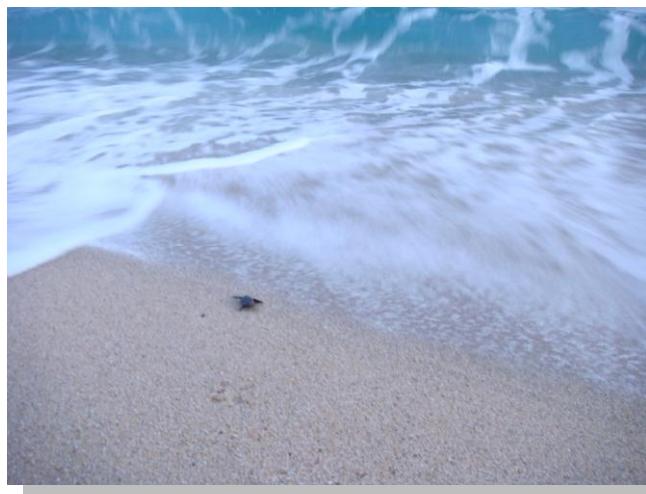
観光業が発展し観光客が増えたことで環境破壊が進んだが行政は何をしてきたのか、等と批判する人も多い。どうすれば良かった等、結果から評価することは容易いことである。どうであれ、今を生きる我々が見ている、今目の前にある事実を見据え、またしっかりと分析や検討を重ねなければ、ただ誰かに責任を押しつけているに過ぎな

い。



屋久島では観光業が発展して民宿やガイドが増えたことに（特に移住者が参入していることも含め）異論を唱える人も多いが、それが今の屋久島が進んできた時代。屋久島が望んでそうなってきたのだと私は感じている。正しくないこと、間違っていること、望んでいないことであれば軌道修正をしていけば良い。

もし屋久島の殆どの住民が、世界遺産に登録されたときに今の屋久島を想像していたならば。もしそんな近い未来にしっかりとした目標が掲げられていたならば。あくまでも仮定の話であり、今から近い未来の目標を掲げれば良い。



まもなく屋久島は世界遺産登録から20周年を迎える。その時、それからの20年後の屋久島について行政も住民も同じ目標を掲げ、あるべき屋久島の道を共に歩いていくことが必至であり、問われるところになるのであろう。